

《履修上の留意事項》生物学の基礎的な知識（高校の生物基礎）を習得済みであることを前提に講義を行う。人体の構造と機能及び疾病I・IIを履修済みであることが望ましい。
 脳の構造や機能についての理解を深めるために、塗り絵の課題を課す。そのため、色鉛筆（クーピー・コピックなども可）が必要になります。色の種類は多いほど良いですが、最低10色程度あれば十分ですので、100円ショップなどで各自購入すること。
 状況により、講義の全部または一部を遠隔形式で実施する場合もあるが、その際には別途連絡する。

《担当者名》安部 博史

【概要】

心理臨床やヒューマン・サービスに関わる仕事に就くことを目指す学生にとって、クライアントが抱える困難さを多面的に理解することが必要とされる。その中で、心の問題の理解と対処のためには、関連する脳の活動とその異常について理解することが不可欠である。また、たとえ心理臨床に関わらない学生であっても、自他共に健康的な社会生活を営む上において、脳科学の知見と関連づけたこころの働きに関する理解や、こころの病に関する脳科学の知見は不可欠である。近年の脳科学は進展がめざましく、その内容は膨大かつ複雑であるが、本講義では基礎的な内容を中心とし、適宜最新のトピックスも取り扱う。

【学修目標】

脳とこころの働きに関する理解を深める。
 精神疾患の病態を中枢神経系の障害として理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	脳を観る・脳を調べる	脳の概観 脳を対象とした研究方法	安部 博史
2	神経系の基礎	ニューロン 活動電位、神経伝導 シナプスと神経伝達物質	安部 博史
3	神経系の発生	脳の形成 胎生期の経験、胎教の有効性 胎生期ストレス	安部 博史
4	意識と脳	私は脳のどこにいるのか われわれに自由はあるか 脳死	安部 博史
5	視覚系	視覚に関わる脳内機序 顔の知覚	安部 博史
6	学習・記憶	条件づけの脳内機序 報酬系 薬物嗜癖 扁桃体	安部 博史
7	学習・記憶	長期記憶の座 宣言記憶と非宣言記憶 H.M.の症例 アルツハイマー型認知症 パーキンソン病における記憶障害	安部 博史
8	言語	言語に関わる脳領域 失語症	安部 博史
9	情動・感情	情動・感情に関わる脳内機序 扁桃体 視床下部 前頭葉	安部 博史
10	情動・感情	情動・感情の障害に関わる脳内機序 抑うつ 不安 恐怖症 強迫神経症	安部 博史
11	摂水と摂食	口渇感に関わる脳領域 空腹と満腹に関わる脳領域 摂食調節因子 摂食障害 なぜ食べ過ぎるのか	安部 博史
12	睡眠	覚醒水準 概日リズム 睡眠 睡眠剥夺	安部 博史
13	雄性行動・雌性行動	性ホルモン フェロモン 性関連障害	安部 博史
14	精神疾患と脳の障害	統合失調症 ドーパミン神経系	安部 博史
15	神経内科疾患と脳の障害	脳血管障害 脳腫瘍 パーキンソン病	安部 博史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート・ミニテスト20%、期末試験80%とする。

【教科書】

脳から始めるこころの理解（福村出版） ISBN: 978-4571210396

【参考書】

ピネル バイオサイコロジー 脳心と行動の神経科学（西村書店）
第4版 カールソン神経科学テキスト 脳と行動（丸善出版）
カンデル神経科学（メディカルサイエンスインターナショナル）

【備考】

全ての回に出席し、その内容を十分に理解していること、指示された講義前学習を行っていることを前提として講義を進める。講義内容に不明な点などあれば、質問などを行い、直ちに解決すること。

【学修の準備】

各回の「授業内容および学習課題」に挙げられているキーワードについて、教科書・参考書、インターネットなどを利用して事前に予習を行う。各回指定される教科書・資料などの指定された部分を精読する。事前学習には60～90分かかるとを想定している。

【ディプロマポリシー（学位授与方針）との関連】

1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
上記に掲げる心理学部のディプロマ・ポリシーに適合している

【実務経験】

公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

精神科および発達障害者支援センターにおける実務経験を活かし、脳科学に関する基礎的な教育内容を可能な限り臨床場面と関連させて解説する。